

事業所名

スマートキッズソリス両国(児童発達支援)

## 支援プログラム

作成日

2025年

1月

15日

法人(事業所)理念		教育の力により、一人ひとりの可能性を最大限支援することによって、共生社会の実現に貢献します			
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に課題に取り組めるよう、子ども自身の力を信じ、思いに寄り添った関わりをもつ。</li> <li>・社会生活に必要な力を育むために、一人ひとりに合わせた課題をスモールステップで設定し、成功体験に繋げる。</li> <li>・地域や関連機関と密接に連携し、子どもとその家族に最適な支援を検討し、提供を行う。</li> </ul>			
営業時間		10時0分から	18時0分まで	送迎実施の有無	あり <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">なし</span>
支援内容					
支援方法		個別課題		集団・小集団課題	
本人支援	健康・生活	災害時の対応を身に着ける課題 生活スキル獲得のための食具の操作や道具操作などの課題 季節や気温に合わせて健康を保つための服装の調整の課題		危険個所の理解や災害時等に関する避難訓練の実施 健康的な生活を送るための基本的な生活習慣・良いルーティンを知る活動 身だしなみや清潔保持に関する知識習得のための活動	
	運動・感覚	活動時や課題実施時の姿勢保持の課題 身体全体で揺れを感じたり、手指や肌の触覚を味わう課題 指先の機能の向上のための微細運動(例:洗濯ばさみ、プットイン等)の課題		指先の感覚や操作に関わる活動(粘土、紙やぶき、箱の中身はなんだろう?等) 指先の操作や巧緻性のための微細運動(製作等) 体幹や姿勢保持・ボディイメージの形成のための活動(バランスボール、平均台等)	
	認知・行動	物の概念(長さ・大きさ等)の獲得に関わる課題 特性における認知の偏りを緩和し、興味・関心の幅を広げる課題 見通しを持つことで安心して過ごせるようスケジュールや構造化への理解の課題		興味・関心の幅を広げるための活動(これってなんだ?、好きな物どれだ?等) 興味・関心の幅を広げるための活動(日本の文化に親しむ(書初め・正月遊び等)) 空間把握の認知形成に関わる活動(パズル、ブロック遊び等)	
	言語・コミュニケーション	コミュニケーションスキルの獲得・向上のための(指差し、身振り、サイン等)の課題 人との相互作用によるコミュニケーションとしての1対1での関わり課題 文字・記号、絵カード等の適切なコミュニケーション手段を活用するための課題		文字やイラストを用いたコミュニケーションの活動(かるた、絵しりとり等) 口頭での指示理解や説明内容の理解のための活動(スリーヒントクイズ、メモをとってみよう) 人との相互理解のコミュニケーション活動(顔き、拍手、OKサインの活用等)	
	人間関係・社会性	適切な距離感や丁寧な言葉への理解に関する課題 集団への参加や集団での指示理解のための課題 社会でのルール理解や他者との関わりに関する課題(SST)		社会性の向上のための活動(SST、ルールを守って協力ゲーム等) 集団の中での順番、工程を守るための活動(よく聞いてやってみよう、順番にできるかな) 複数の利用者同士の適切な関わり理解のための活動(貸し借り、勝ち負けのあるゲーム等)	
家族支援		保護者に対して、発達検査や本事業所内での様子、家庭での情報を踏まえてアセスメントした内容を共有する。また、現状の発達段階や特性についての対応も明確にし、本事業所で対応していることを家庭でも取り組めるように共有していく。 保護者との面談や支援内容の共有の時間を通して、発達段階における基本対応や特性に関する基本情報の提供を行い、家庭で可能な適切な対応に関して助言を行う。		移行支援	各種関係機関で役割分担を行うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有することで、日常生活や支援に活用するための具体策を提案する。 各機関での対応や様子を確認し、日常生活でその対応を活かせるように保護者を含めて連携していく。
地域支援・地域連携		将来を見据えた利用者の現在の課題を他機関と共有し、自立のために出来ることを増やす支援を行う。 日常的な連携に加え、利用者に対して就学に向けてできる支援について共有を図る。		職員の質の向上	経験年数別の階層別療育研修・組織人研修、虐待防止研修、感染症対策防止研修等の実施。 心理士等専門家を交えたミーティング、事例検討の定期実施。
主な行事等		避難訓練(火事、地震、水害、防犯等)、保護者会、保護者参加療育イベント、その他			